

メンバーの皆さん こんにちは。  
『ろくな者じゃの会』です。

変な天気が続きます。なんか肌寒い日もあります。  
体調管理が難しい季節？。例年なら汗ばんでくるのに変ですね。  
皆さん如何お過ごしですか。

「最近メルマガ手を抜いてるやろ」のお叱りをいただきました。  
ハイ、抜いておりました。  
反省を少しだけ込めて、今回は報告の旅日記を「きまぐれに」書きました。  
ご笑読のほどを。

\*\*\*\*\*

#### ●「紀州街道」を歩く 其の四 雨天決行

「其の参」は松ノ浜から貝塚まで歩きました。詳しくは「奇間愚連日記」を。  
今回は、貝塚と泉佐野の古い町なかの散策を中心に企画しました。  
歩く距離は伸びませんが、情緒ある寺内町や昔栄えた古い港町をじっくり楽しみ  
ます。また、熊野古道を歩いた折の忘れられないエピソードの「故谷川さんパン  
ツ事件」のお風呂屋さんも再訪したいと思います。  
皆さんぜひご参加ください。

参考資料：<http://myippo.com/kaidou/kisyu/kisyutop.htm>

★日時：6月12日（土）8：57～

★集合：南海電車「貝塚」駅 午前8時57分集合  
（南海線難波 08:25 発区間急行⇒新今宮 08:27⇒貝塚 08:57 着）

★コース：貝塚駅⇒願泉寺⇒寺内町⇒焼酎の館⇒二色浜⇒住吉神社⇒泉佐野漁港  
（昼食）⇒町なか散策⇒大將軍湯（入浴）⇒散策⇒泉佐野駅

★持ち物：ハイキングの服装足回り、飲み物、雨具、着替、お昼は漁港の「青空  
市場」で、新鮮な魚介類やアナゴ、蛸の天ぷらなどで昼食宴会。入浴  
準備は必ず。

参加連絡は必ず北出まで。

\*\*\*\*\*

### 【奇聞愚連日記】

「紀州街道を歩く其の参」に参加したのは、キレイ(?)どころ三人組。W辺女史、I女史、G田ママ。むさ苦しき我ら三人。M岡さん、N口さん、私。前回の半数。

「松の浜」駅をストレッチもそこそこに9時過ぎ出発。早速、I女史大阪のおばちゃん化「飴いらんか？」。

旧26号線を渡り、裏道の紀州街道に入る。南西に道を取り春日町墓地の「ロシア兵墓地」へ。

前回通った「高師浜」に日露戦争の捕虜収容所があった。そこで亡くなった兵士の墓がここにある。解説には、

「多くのロシア兵が捕虜となって日本各地に収容され、高石の海岸につくられた収容所にも、多いときには2万人もの捕虜が収容されていました。地区の住民が異国の地で寂しく死んでいった兵士のために、自分たちの墓地のうち約600平方メートルを提供して造り、現在も89基の墓石が並んでいます。」とあり、その後の日本軍には無い「武士道」精神やヒューマニズムが見て取れる。

大津神社にお参りをして、紀州街道に並行している浜街道に回る。

毛布産業で栄えた町屋建築や工場が残っていて、往時の面影を残している町並み。入母屋造の重厚な町屋が並び、大正時代の建築という銅板張りの家もあった。周辺にはのこぎり型屋根の工場も。明日23日には「浜街道祭り」があるそうで、残念なことに今日は何もイベントをしていない。ぐるっと回って紀州街道に戻る。

陽射しがきつく気温が上がる。日焼けを気にしてか、I女史完全防備。長袖に幅広帽。「いまさら遅いやろ」の突込みを物ともせず快調に歩く。大津川を渡って忠岡町へ。「正木美術館」をパスし、すぐに岸和田市に入る。忠岡町の幅約700メートル。日本一小さい町とか。約4.03km<sup>2</sup>。

八幡山公園で小休止。たしか古墳か遺跡の跡だと思っていたが、何も無い。帰って調べたら、やはり縄文晩期(2500年前)の遺跡。大阪湾に面した砂丘上に形成された重要な遺跡とのこと。コッラァ、岸和田市説明板くらい立てんかい。男性軍液体燃料の補給。G田ママもビールを買いに走る。しばし快い風に吹かれて雑談。

春木の町並みを楽しみながら紀州街道を進む。このあたりは旧の26号線ができるまでこの

道が幹線道で、当時はバスのすれ違いも軒先を擦りそうであったそう。

地元の八百屋さんで、M岡さんソラマメを購入。安いので私もN口さんも買う。

そろそろ昼食。「よさげな店」は無かろうかと探すがなかなか見つからない。

港のほうに「イズミヤ」を見つけ弁当と飲み物を購入して、海辺で食べることに。

海風の潮の香りにつつまれて昼食宴会。

周りには親子連れ、若夫婦の買い物客。颯颯の眼も気にならず、ああだこうだ、ワイワイガヤガヤ小一時間。

岸和田の町をそぞろ歩いてお城に行く。堀の蓮の花を見て、本丸へ。

「この岸和田城は、別名千亀利城(ちきりじょう)、猪伏山と呼ばれた小高い丘の上であり、本丸と二の丸を合せた形が、機の縦糸を巻く器具「膝」(ちきり)に似ていることから蟄亀利城(後に千亀利城)と呼ばれるようになった。楠木正成が和田高家を岸和田に派遣して岸和田古城を築かせた。その後、大坂冬の陣では松平信吉が城主となり、のちに北条氏重、その後は小出吉英、元和5年(1619年)松平康重が城主となったようである。その後寛永8年(1632年)に伏見城が破却されると矢倉などが移築され城郭が強化された。その松平康重も山崎城へ転出すると寛永17年(1631年)、高槻城より岡部宣勝が入城し、6万石の城主となった。以後岡部長職の時代まで岡部氏13代の居城となる。明治4年(1871年)廃藩置県により岸和田城も廃城となる。」とある。

城を出て、蛸地蔵の「天性寺」へ。見るものも無く街道を進む。

道に迷った。曲がらないといけない所を見過ごし真っ直ぐ進んでしまい、川に突き当たる。

向こう岸には、「寺田紡績」のレンガ塀が。迂回して街道に戻る。

銭湯がある「平和湯」。W辺女史を除いて入浴することに。W辺女史はなにやら海辺で唸る練習とか。入ってびっくり、全身モンモン入りのおっさんが。前回の銭湯でもいてましたなあ。やっぱり泉州でんなあ。私の子供のころ大阪の銭湯でも、近所のモンモン入りのおっさんをよう風呂屋で見かけたもんですがね。最近見ませんな。

風呂あがり、気持ちよく歩いて「貝塚」駅に。貝塚見物は次回にまわし車中の人に。天下茶屋でキレイどころ(?)と無事別れ(?)、男三人難波まで。

ナンバをうろつき開店早々の立ち呑み屋「手しごと屋」に。

なかなかええお店でアテも丁寧で美味しいですな。ビールでのどを潤し、ワイワイと。しばらくたって焼酎、酒に切り替わる。おとなしそうな店主に、ああだこうだと蘊蓄が始まるころにはかなり出来上がってる。「お前らはよう帰れよ」という目に物ともせず、お代わりを注文。ええ加減なところで切り上げんと次来れない。これまでと勘定する。

「ありがとうございました」と怒りを含んだ尻下がりの声に送られて帰路に着く。

\*\*\*\*\*

●劇団きづがわ公演「通りゃんせ」

メンバーの橋本依子さんが出演します。

「黄昏ゆく人生の哀歌・・・忘れ得ぬ心の疵、愛と絆－

戦中・戦後を生き抜いた庶民の真実、胸を打つ2つのものがたり。」

だそうです。お時間のある方はどうぞ。予約制 (TEL 090-5131-4446 橋本)

★日時：6月4日(金) 5日(土) ⇒ PM 2:00 & PM 7:00

6日(日) ⇒ AM 11:00 & PM 3:00

★会場：関西芸術座スタジオ(地下鉄「岸里」・「玉出」徒歩10分)

★前売り：一般2500円 学生・障・シニア2000円

当日： 3000円 2500円

\*\*\*\*\*

●映画「クロッシング」 見逃した方ぜひどうぞ「七芸」で上映。

生きるために、別れるしかなかった。

世界を揺るがす収容所国家【北朝鮮】－脱北と引き裂かれた家族の衝撃。

この作品は、世界で初めて、北朝鮮のリアルな日常と強制収容所の実態を描くことに成功した。北朝鮮の炭鉱の町に住む少年ジュニは、元サッカー選手で炭鉱で働く父と母と三人で、貧しいながらも幸せに暮らしていた。ある日、母が肺結核で倒れ、北朝鮮では薬が手に入らない事から、父は脱北を決意する。危険を顧みず、決死の覚悟で国境を超え、中国で必死で働く父。北朝鮮で父の帰りを待ちわびていた母子だったが、母はひっそりと息を引き取ってしまう。孤児となったジュニは父との再会を信じ国境を目指すのだが…。脱北者100人以上への取材を重ね、企画から完成までに4年を要した本作は、実際の脱北経路を歩き来し撮影された。助監督をはじめとする30人余りの実際の脱北者がスタッフとして参加。彼らの想像を絶する体験と故郷への想いが折り重なった。

★第七芸術劇場（阪急十三下車3分）電話 06-6302-2073

★6月26日(土)～7月16日(金) 上映時間は問い合わせてください。

\*\*\*\*\*

ではでは、皆さんにお目にかかれるのを楽しみにしています。  
近況メールも楽しみにお待ちしております。

『ろくな者じゃの会』代表世話人 北出裕士 拝